

常に新しい自分へのChallengeを続け 愛と感謝を感じながら生きていってほしい

「本物の愛の言葉を生徒たちの心にまっすぐ届けたい」と願い、現在の道を選ばれた沖崎先生。
高校の聖書の授業で多くの愛の話を語られる中で、
「生徒たちの金城生としての輝きに日々驚き、感動している」とおっしゃいます。
また宗教主事として、全校礼拝や宗教行事を通して、
「愛も感謝も自ら探し出し、さらにはその愛と感謝を周囲の人と分かち合える人になってほしい」と
日々生徒たちと向き合っているそうです。



沖崎
学
教諭

金城学院高等学校
宗教主事

大学卒業後、明治学院中学、東村山高等学校で国語科教員として教鞭を執る。その後日本基督教団東舞鶴教会の牧師、舞鶴基督学園朝日幼稚園の園長を経て2008年に金城学院高等学校へ招聘される。現在は宗教主事として聖書の授業を担当。

金城生一人一人の心に届く 愛の言葉を語りたい

小学校から高校までいろいろな先生方に教わりながら、ずっと「こんな先生がいたらいい」という理想を描き続けてきました。人間として「どこまでも強く、優しく、明るい」そんな教師をめざしてこの道へとすすんだのです。

当初は国語の教師をしていましたが、「果たして本当に自分が思い描いた理想の先生になれているか」という思いが日に日に強くなってきました。自分が教師として取り組みたいことは、神さまの愛を生徒たちの心に届く言葉で語ることだと強く思うようになったのです。いったん教師をやめて神学校で学び、周りの人の大きな愛に支えられながら京都で牧師兼幼稚園園長を務めたあと、金城学院に招聘されました。

現在、高校で聖書の授業を教えています。授業では毎回、愛や喜び、感謝について話します。当たり前の日々の中にたくさんの神さまの愛や家族の愛、友人の愛が隠れていることや、愛を見つけれれば人生の困難もきっと乗り越えられることなど、神さまの愛のすばらしさについて生徒たちに語り、一緒に考えます。授業の最後にはカンキチ(感じ、気づき、知ったこと)を毎回書いてもらうのですが、たくさんの感動的な言葉を書いてくれます。生徒たちはそれぞれに複雑な問題を抱えています。心が耕され、潤い、自ら動き出したいと思えるような神さまの愛の言葉をこれからも伝えていきたいと思っています。

身の周りの多くの愛と感謝に 気づける人になるように

宗教主事として全校礼拝をはじめ、金城学院高校で行われるすべての宗教行事を担当しています。特に「花の日礼拝」は、生徒たちが自分の周りに愛を見出すプログラムで個人的にも好きな礼拝のひとつです。この日は、校内清掃をされている方や保健室の方、また地域でボランティア活動をしている方などいつもお世話になっ

ている方々に生徒たちが感謝の気持ちを込めて花を贈る「愛の花お届けプロジェクト」が行われます。「愛の花お届け隊」に立候補した宗教委員の生徒たちは、花を届ける方々について事前に調べ、その方々に対する感謝の気持ちを深めてから花を届けます。行事を終えたあと、全校生徒の心は“ありがとう”の気持ちでいっぱいになり、家族への感謝や友だちへの感謝など、さらに感謝すべき人々や場所を探し出すようになります。自分が持てる精一杯の愛で、周囲の人々へ働きかけていきたいと思えるようになるのです。

金城生はみんな、愛のセンスに富んでいると私は思います。126年という長い歴史の中で、愛の話を聞いたり、見つけたりする機会を大切にきた金城学院で学んでいるからこそ、生徒たちにこのようなすばらしい心が培われているのだと日々実感しています。ともすれば当たり前になりがちな学校生活の中で、「金城学院ってすばらしい」「ここにも神さまの愛が息づいている」と生徒たちが多くの喜びに気づけるように働きかけていくのも、宗教主事としての役割だと思っています。

金城学院で出会ったKey Word で常に成長し続けられる人に

こうした金城学院での日々を通して、金城生の心にもっと多くの言葉を届けたいと思い、今年2月に『キミのところに語りかける24のKey Word』という本を出版しました。聖書に登場



『キミのところに語りかける24のKey Word』

する女性の物語を取り上げて、愛や勇気や希望などのKey Wordについて書いています。タイトルの中にある「キミ」というのは金城生のことです。「キミの青春のKey Wordが人生のKey Wordになる」と本の帯に記したように、金城学院で出会う言葉の一つひとつは、これから先の人生で、自分の前の扉を開いていくKey Wordになると思います。生徒たちには授業や学校生活の中で学び、知る言葉をKey Wordに、すべての転機を成長のためのチャンスと捉え、今の自分に感謝しつつ、常に新しい自分になるためのChallengeを続けてほしいと願っています。そのためにもまず教師である自分がChallengeしなくてはと思い、本を出版するに至ったのです。

生徒たちには卒業してからも、どんなときもどこにいても、6年間で身につけてきた金城生としてのすばらしい“香り”を放ちながら、前向きに笑顔で愛を持って生きていてもらいたいと思います。まさに金城学院の制服に縫い込まれている白線のように、神さまの愛に包まれた真っ白な“White Line”の上をこれからも金城生が歩んでいくことを願っています。



沖崎先生はどんな人!?

生徒会執行部で宗教行事にかかわっている生徒たちに沖崎先生の印象について伺いました。すると「授業で先生のお話をきいて、すごい先生だと思いました。問題にぶつかっても先生がそこにくださると力をもらえます」との声が返ってきました。また「もうどうにもならないと思えたときにも、今からでもまだできることや、次にすべきことをかならず教えていただけます」とも。生徒たちに大変頼りにされている優しいお人柄が窺えました。